

会議名	港区町会・自治会まるごとデジタル支援業務委託事業候補者 第1回選考委員会
開催日時	令和3年12月23日（木曜日）午前10時から11時まで
開催場所	港区役所3階産業・地域振興支援部会議室
委員	（出席者） 鍵屋 一委員長、名和 満副委員長、浅井真紀子委員、鳥居誠之委員、野々山哲委員
事務局	産業・地域振興支援部地域振興課区民協働・町会自治会支援担当
会議次第	1 開会 2 委員長・副委員長の選出について 3 選考委員会選考スケジュール（案）について 4 事業候補者募集要項（案）について 5 採点基準表（案）について 6 その他 7 閉会
配付資料	・次第 ・資料1 港区町会・自治会まるごとデジタル支援業務委託 事業候補者選考委員会設置要綱 ・資料2 港区町会・自治会まるごとデジタル支援業務委託 事業候補者選考委員会委員名簿 ・資料3 選考委員会選考スケジュール（案） ・資料4 港区町会・自治会まるごとデジタル支援業務委託 事業候補者募集要項（案） 別紙1 仕様書（案） 別紙2 港区町会・自治会まるごとデジタル支援業務委託 事業候補者選考基準（案） 様式1～10 ・資料5 採点基準表（一次審査）（案） ・資料5-2 採点基準表（二次審査）（案）
会議の結果及び主要な発言	
事務局	1 開会 ～委嘱状の交付、各委員挨拶～
事務局	2 委員長・副委員長の選出について ～互選により委員長選出、副委員長は委員長が指名～
A委員	3 選考委員会選考スケジュール（案）について ～資料説明～ 1月11日に広報みなとで広報しますが、ホームページでの公表の予定は。

事務局	12月28日にホームページで公募を開始する。
事務局	4 事業候補者募集要項（案）及び様式、5採点基準表（案）について ～資料説明～
B委員	【資料4 募集要項】 1 目的の冒頭だが、町会・自治会は創意工夫をしながら活動を継続されているので、「コロナ禍の影響により町会・自治会活動が停滞しており」ではなく、「影響を受けており」としてはいかがか。
委員	異議なし
B委員	2（2）業務内容の②対象団体も、「デジタルリテラシーの低い」ではなく、仕様書にある「デジタル機器、技術等の導入を希望する」または「デジタル機器に不慣れな」といった表現に変えてはいかがか。
委員	異議なし
B委員	2（2）業務内容の③デジタルお助け隊人材育成のウ フォローアップについて。仕様書の6業務内容（5）デジタルお助け隊のフォローアップでも詳細が書かれていないため、提案の幅がありすぎる。一言二言、追加してはどうか。また、仕様書の「アドバイス」と「助言」は同じ意味なので見直しをお願いする。
委員	異議なし
委員長	様式1の質問の送付はFAXだけか。通常はメールでもやりとりするので、メールを加えてはいかがか。
事務局	質問は、メールのみとする。
C委員	7企画提案書等の提出（6）留意事項の補足資料が全10枚では少ない。枚数制限は設けた方がいいが、30～40枚程度でどうか。
委員	異議なし
B委員	【資料4別紙1 仕様書】 2 業務の目的だが、「デジタルお助け隊」として町会・自治会活動を下支えできる仕組みを作り」の後、「継続して他の町会・自治会に横展開を可能とする」という表現がわかりづらいので補足を依頼する。
事務局	令和5年度以降も、デジタルお助け隊は継続したいと考えている。
委員長	単年度の仕様書では、そこまでは明記できないのではないか。
C委員	過去の事例だが、サーバー導入など翌年度以降にも予算がかかる案件であれば、先5年ほどを参考見積りとして提出していただく方法もある。
事務局	「下支えできる仕組みを作るため、当該業務を委託するものです」とする。
委員	異議なし
事務局	（2）携帯端末の調達⑦その他、電気通信事業法の一文は必要か。
C委員	広く募集をしたいということであれば、なくてもよいと思う。
事務局	削除する。
委員	異議なし

C委員	講座の受付業務や機器の返却手続き・台帳管理は区で行うのか。明記した方がよい。
事務局	業務の切り分けを明記する。
委員	異議なし
A委員	仕様書の体裁を、資料4別紙2のように揃えるように依頼する。 【資料4別紙2 選考基準】
C委員	二次審査では、一次審査の要旨（サマリー）で説明し、それ以上の提案を加えることのないようにといった文言を追記した方がよいのではないかと。
委員	異議なし
C委員	二次審査の評価項目には「本業務の将来性、創造性、発展性がうかがえる提案」とあるが、一次審査の提案資料にはそれにあたる部分が見受けられない。一次審査の提案資料にも、将来性、創造性、発展性について入れてはどうか。
委員長	様式7の「考え方」の後に、具体的な方策、構想、戦略、独創性、発展性といった内容を括弧書きで入れてはどうか。
事務局	様式7を、「港区の町会・自治会のデジタルデバインド解消に向けた具体的な方策及び長期的なデジタルデバインド解消に向けた戦略、構想を提案してください。（独創性、将来性、発展性）」とする。
委員	異議なし
事務局	第一次審査合格者を3者程度、第二次審査の所要時間は説明10分、質疑20分の30分程度、プレゼンテーションではプロジェクター及びスクリーンを用意すること、同席者は3名までとすること、第一次審査及び第二次審査のそれぞれの満点の60%を基準点（最低ライン）とすることについては、このまま進めてよろしいか。
委員	異議なし 【様式】【資料5、資料5-2】
C委員	事務局配点の250点はどのように決めているのか。
事務局	「港区プロポーザル方式実施ガイドライン」に沿って設定している。
委員長	1 基本事項の評価は事務局で行うということだが、内容はよろしいか。
委員	異議なし
委員長	2 企画提案の評価は150点（計750点）配点なので重要だ。
B委員	配点では、（1）の考え方も大切だが、実現性がないと成立しない。一次審査選考表では、実現性についての配点が低くなっているが、二次審査では実現性が一番配点が高い。整合性をどのように考えるか。
事務局	配点については、協議いただきたい。例えば一次審査における理念や考え方の提案の配点を20点とし、実現性を30点とすることもできる。
C委員	考え方も重要で、デジタルデバインドも簡単には解消されないもので、どのような提案が出てくるかには非常に興味がある。
D委員	私もそう思う。

C委員	点数はそのまま、一次提案では、デジタルデバイド解消に向けた提案内容に重きを置いて、二次提案では実現性を重視するという考え方もある。
委員長	C委員のご提案についていかがか。
委員	異議なし
C委員	4 提案内容について 独創性、発展性は様式のどれに対応しているか。
事務局	様式7から9に該当する。
委員長	そのように書いてもらえるとありがたい。様式7に、独創性、発展性と入れると、審査しやすい。
委員	異議なし
委員長	様式8、9についてはいかがか。
D委員	人材育成やコミュニケーションスキルとなると、絶対値が出せず、感覚値による評価基準になりますが、効果の期待値や区が期待すること等がもう少し書かれていた方が、事業者は企画書を書きやすいのではないか。
事務局	資料4別紙1の仕様書(3)町会・自治会向けデジタル講座の内容、(4)デジタルお助け隊研修に、区が期待することを明記している。
D委員	丸写しになると事業者ならではの提案が現れなくなりますので、様式に、「仕様書を参照」と追記するのがよいのではないか。
委員長	様式8、9には括弧して仕様書を参照のこととすることでよろしいか。
委員	異議なし
委員長	以上、委員の皆様からのご提案を踏まえ、事務局が修正をするということによろしいか。
委員	異議なし
委員長	修正点については事務局で対応をお願いします。12月28日の公募に向けて進めてください。
	【5 閉会】
委員長	以上をもって、第1回事業候補者選考委員会を終了する。